

特集 美白

美白を 解き明かす

日本人の白い肌へのあこがれは今も昔も変わらない。ただ、美白を得る手段は大きく変わってきた。すなわち「おしろい」から「美白化粧品」、そして「美容医療」へと進化した。しかしその基本には正しい診断が不可欠であり、さらにそれに基づいて正しいアプローチを選択することが、美容医療を行う医療者には求められている。今回の座談会では、化粧品科学者側の視点も加えて、色素にかかわるよくみられる疾患に応じた美白治療について論じていただいた。



司会

川島眞
東京女子医科大学名誉教授



online meeting

※本座談会は2020年6月2日にオンラインで実施した。



美白を求める意識を探る

川島 昔から「色の白いは七難隠す」といわれるように、日本人には古くより美白信仰があり、世界のなかでも美白ニーズの高い国だと思います。先生方は、日常の臨床で、ニーズの高さを実感されることはありますか。

川田 アジアにおいては、白い肌は美しさと若さの象徴です。それ以外

の地域では、社会的地位の高さや富裕と結びつくのですが、アジアではそのようなイメージはあまりありません。

川島 アフリカやラテンアメリカはいかがでしょうか。

川田 とくにアフリカでは日常的に美白剤が使われ、副作用が問題になっているようです。

川島 今は世界中が美白志向であるともいえそうですね。木村先生のご意見はいかがですか。

木村 皆さんの美白への関心は高い